

第7回 事業の失敗を避けるための経営計画の作成と精度アップのポイント

時代の変化が読めない時代です。変化が質的にも量的にも速く、複雑になってきています。それゆえに企業によっては経営計画を作らないところもあるようです。しかし羅針盤がなくては那场その場の打算的な行動が中心となり、はては経営破綻へと陥り易くなるともいえます。それにしても経営計画の精度があまりにも甘いものが多いのです。事前の検討が足りないのです。事業の成否にとってまず十分検討し練られた経営計画がスタートなのです。甘い計画でスタートして成功した事例は幸運としか言いようがないと言えます。

事業の失敗を避けるための経営計画の作成と精度アップにあたっての7の着眼点

1. **まず第一に、事業の目標、目的を明確に把握しているかどうかです。**これが曖昧では事業になりません。己の事業は、何か、それをもっていかに社会に貢献するか、単に金儲けだけでは事業として浅いのです。永続するためには社会に役立つ評価をされる事業であることが必須です。
2. **事業そのものについてどこまで掘り下げていますか。**当社の事業について、業界動向、関連業界、マーケット性能・動向、影響を受けそうな外部変化、そしてそれらに対する自社の強み、弱みこれらの分析検討が極めて不十分な企業が多いのです。失敗する企業の大半はここに最大の原因があります。
3. **年度計画を作るまえに中・長期の展開をまずもたねばなりません。**将来事業を大きく発展させたいなら少なくとも3年程度の展望は持ちたいものです。いわゆる中・長期計画資金計画を同時に作成し単年度計画はそのスタートの一步としたいものです。
4. **経営計画の柱は事業計画です。中でも本業をどう伸ばし、どう強化しより収益力を高めるかです。**
5. **4を前提に人、物、金、ノウハウを具体的に組み立てることで。**
6. **特に内部に限定せず、外部活用も考え、経営資源についてもより幅広い視点から望むことです。**社内で育てることも重要ですが、時間とコストを考えれば避けては通れません。

7. 特に財務計画(資金計画)はしっかりとたてたいものです。5 の経営資源のうちカネに対する詰め甘さも多いのです。特に財務についてはしっかりと計画と管理、人の配置が大事といえます。金の切れ目が事業の破綻につながるだけにしっかりと組み立てたいものです。

以上気がついた点を取りあげてみましたが、経営計画の作成にあたって当事者は夢中なあまり、周りが見えなくなり希望的観測や楽観的な見方が強くなり大事な点を見落としやすいといえます。その意味で信頼できる部下、関係者の意見をよく効いてみることです。失敗事例を多くみているだけにこれから事業を始める人や居間の事業を強化・見直したい人にいささかなりともお役に立てればと思います。お困りの方がいらっしゃればお気軽にご連絡ください。成功を期待して、無料でご相談に応じます。